

大工さん育成ガイドブック (経営編)



一般社団法人 北海道ビルダーズ協会

目次

I はじめに	1
1. ガイドブックのねらいと背景	
(1)ガイドブックのねらい	1
(2)大工さんの確保・育成の背景と目的	1
(3)本協会及び大工育成委員会の活動と経緯	2
2. 大工さんの確保と育成に対する工務店経営者の心構え	
(1)雇用主の心構え	3
(2)若者の入職意欲を高め、新人大工として定着するために必要な雇用条件	3
(3)目指すべき大工の道標（キャリアパス）の明確化と実行	4
II 大工さんを大事にする環境づくり	
1. ものづくりに活躍する大工さんに興味をもってもらう機会	
(1)子ども達とのものづくり教室	5
(2)企業のお客様感謝祭	5
(3)高校生等の現場見学会・会社見学会	5
2. 求人と雇用	
(1)求人申込票の記入・作成、提出	6
(2)意欲ある若者の入職につなげる取組	7
3. 工事現場の安全・衛生管理	7
4. 大工さんの技能修練・熟達、キャリア蓄積を大事にする職場づくり	
(1)キャリアパスと大工育成	8
(2)職業訓練施設による大工育成・教育プログラムの実例	8
(3)大工としてのキャリアの積上げと履歴	10
～建設キャリアアップシステム（国土交通省）導入	
(4)大工育成のための人材配置	11
III 指導大工さんの知識と心構え	
1. 心構え編	
(1)指導大工さんの意識と心構え	12
(2)指導大工としての職責	12
2. 基礎知識編	
(1)指導大工さんが持っているのが望ましい資格等	12
(2)スポーツコーチングメソッドによる指導方法	15
3. 指導方法の身につけ方編	
(1)仕事の教え方	16
(2)人の扱い方	17
■参考資料編	
1. ハローワーク求人申込書	
(1)ハローワーク・求人申込書（高卒）	18
(2)ハローワーク・求人申込書（フルタイム・季節・出稼ぎ）	22
2. 求人活動スケジュール	26
3. 資格取得スケジュール	27
4. 作業主任者選任業務一覧表	28

2. 大工さんの確保と育成に対する工務店経営者の心構え

(1) 雇用主の心構え

工務店にとって最も大切なパートナーは大工さんです。

大工さんにとっても工務店は最も信頼できるパートナーとならなければいけません。

大工さんの確保と育成は、工務店の社会的役割であると同時に、自らの生き残りをかけた最重要課題でもあります。

大工が誇りを持てる職業であり、働きがいがあること。それに見合った社会的地位の確立、待遇、雇用・就労環境を整えていくことは工務店の責務でもあります。

大工人口を増やすためには、まず意欲ある若者の入職を積極的に促し、実際に職業として選んでもらう必要があります。その第一歩は、大工さんの「社員化」です。

そして、入職者を増やすためには、安全・安心で働きやすい職場環境の整備も急務です。

求人・採用活動にあたっては、他業種・産業と同程度もしくはそれ以上の雇用条件と就労環境を整備し、提示することが重要です。

(2) 若者の入職意欲を高め、新人大工として定着するために必要な雇用条件

意欲ある若者にとって工務店が魅力ある職場であり、かつ大工さんが将来に渡って希望を持つことができる職業であるためには、他産業・業種と比べても見劣りしない雇用条件を整備し、提示することが重要です。

若者が安心して工務店の大工として入職するには、大工の「社員化」が不可欠です。

「社員化」の目的は、雇用・就労環境を整えて若者の入職意欲を高めることです。

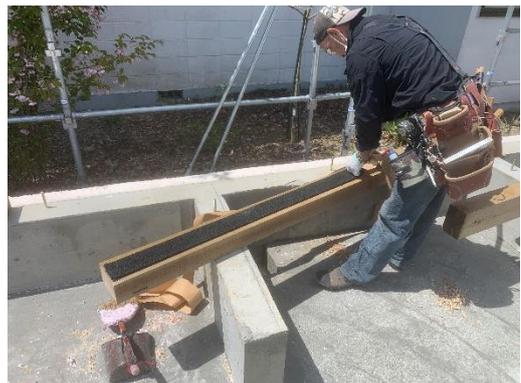
① 労働環境の整備

大工さんの「社員化」とは、以下の事項等を満たすことです。

- ・ 雇用契約の締結
- ・ 社会保険の適用
- ・ 就業規則、有給休暇制度、退職金制度の整備・適用
- ・ 大工育成プログラムの提示説明
- ・ 大工道具の貸与・支給（必要に応じて）

② 社会保険加入、福利厚生制度の充実

- 社会保険加入
 - ・ 雇用保険
 - ・ 厚生年金保険
 - ・ 健康保険
 - ・ 介護保険
- 福利厚生制度
 - ・ 退職金制度
 - ・ 災害保障制度（加入は任意）



Ⅲ 指導大工さんの知識と心構え

1. 心構え編

(1) 指導大工さんの意識と心構え

新人大工の技術習得では外部の訓練・教育機関を活用して集合訓練等を行うこともありますが、新人・若手大工の育成・教育は実際の現場におけるOJTが基本となります。

OJTでは、実際の現場の仕事・経験を通して学ぶため、より実績的なノウハウや技術を身につけることができるのが特徴です。しかし、指導する者に指導力が伴わない場合は期待したような効果が得られないこともあります。

そのため、OJTを担当する指導大工同士のミーティングの実施、指導大工を対象とした研修等の受講などを通して、教え方などの情報共有や工夫などの取組が重要となります。

(2) 指導大工としての職責

入職者不足や若手の離職などで大工の減少が続くと工務店の競争力が弱まり、工務店の存続にも関わる事態につながるという危機感を、経営者だけに止まらず、新人大工や部下を束ねる役割を持つ指導大工も共有すべきことです。

工務店と大工の存続や社会的地位向上のためにも、指導大工自らが責任を持って新人・若手大工の訓練・教育の役割を担い、新人・若手の成長に貢献することが責務です。

2. 基礎知識編

(1) 指導大工さんが持っているのが望ましい資格等

大工になるために特別な資格は必要ありません。しかし、大工や建築の技術を持つことを客観的に証明できる各種の資格を取得することで、大工としてのキャリアアップの証明及び昇進等に有利になるとともに、指導大工として教わる側からの信頼も高まります。

① 建築大工技能士

建築大工技能士とは木造建築の大工工事に必要な技術を証明する国家資格です。

各都道府県にある職業能力開発協会が実施する試験に合格することで資格を取得できます。試験には学科と実技試験があり、両方の合格が必要です。

資格には3級から1級があり、1級を取得するためには7年以上の実務経験が必要です。1級の資格保持者は大工として上級であると認識されます。

建築大工技能士	受験資格	実技作業試験内容 (大工工事作業)
3級	実務経験6ヶ月に満たない場合も受験可能	仕様に従い、柱、桁、はり、棟木、隅木及び平たい木の加工組立を行い、寄棟小屋組の一部を製作する(打切り時間3時間)
2級	実務経験2年以上	屋根筋かいを用いた小屋組の平面図、振たる木、屋根筋かいの原寸展開図及び基本図を作成し、木ごしらえ及び墨付けをした後、加工組立てを行う(打切り時間:3時間45分)
1級	実務経験7年以上	隅木小屋組の平面図、隅木小屋組のひよどり栓さし隅木及び配付たる木の原寸展開図を作成し、木ごしらえ及び隅付けをした後、加工組立てを行う(打切り時間:5時間)